

# 国見の輝き人

ジェラートを通じて「絆」を結びたい—

齋藤 <sup>れな</sup> 礼奈さん(左) 阿部 <sup>あんな</sup> 杏奈さん

お店を開こうと思ったきっかけは、沖縄の国際通りにあるジェラート店で食べた味が衝撃的だったことです。まるでフルーツそのものを食べているかのようで、本当に驚きました。もともと沖縄が好きで、よく旅行で訪れていたのですが、そのジェラートを食べるために年に4、5回も沖縄へ行くようになりました。そんな時、そのお店の店長さんから「そんなに好きなら自分で作ってみたら？」と言われ決心しました。

開店するにあたり、「国見町で」という思いがありました。除染作業に従事していた時に風評被害の現状を目の当たりにして、自分たちで風評被害を払しょくしたい、町の素材を使用してジェラートを作ることで、国見町をPRしたいという思いが強くなりました。

一番こだわっているのは、「素材そのものの味を出すこと」です。特に桃は何度も失敗し、絶対に無理だと思っていました。ですが、約2年ほど試行錯誤を繰り返し、納得のいくものが完成しました。



色鮮やかなジェラートがたくさん!!

私たちが作っているジェラートは、素材の味を感じてほしいので、添加物を使用していません。農家さんたちが素材に込めた思いを、ジェラートという形にしてみなさんにお届けすることが役目だと思っています。また、お客さまがいつも温かく接してくれることが本当に嬉しいです。これからもジェラートを通じて、人とのつながりをたくさんつないでいきたいと思っています。



齋藤礼奈さんが店長を務める「Gela319」は「齋久設備」敷地内に2018年8月にオープン。礼奈さんは沖縄の有名ジェラート店で腕を磨きました。従業員の阿部杏奈さんと素材を生かした新しい味の開発に向けて日々研究中。

町長  
コラム



ま  
真こらむ

【第2回】

## お待たせしました「放課後塾ハル」始めました

もっと勉強したいのに親の負担を考えると塾には行けないなあ。そもそも近所に塾がない…。日本にはこういった格差があります。そして、格差の影響は子どもたちの学力や生きる力に表れます。

どこに生まれようが、誰のもとに生まれようが、子どもは等しく尊重され、同水準の教育を受けるべきです。私たち大人には、子どもたちの「好き」と「面白そう」に一所懸命になれる環境を整える責任があります。町が開塾する「放課後塾ハル」は、その取り組みの一つです。中学3年生から小学5年生までの子どもたちを対象にします。

この塾が用意したたくさんの「好き」と「面白そう」の扉を開けた子どもたちは、どんな夢を描くのかなあ。そして実現していくのかなあ…。焦らず、急かさず、見守ることとします。

引地 真

